



特許願 (2)

昭和50年4月3日

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 発明の名称 ガラス繊維強化セメント板の製造方法

2. 発明者

住所 大阪府藤井寺市梅ヶ園町22番11号  
氏名 寺本 博

3. 特許出願人

住所 大阪市浪速区船出町2丁目22番地  
名称 (105) 久保田鉄工株式会社  
代表者 代表取締役社長 廣慶太郎

4. 代理人 〒662

住所 兵庫県西宮市門戸莊15番11号  
氏名 (5906) 弁理士 清水 実

5. 添附書類の目録

(1) 明細書 1 頁  
 (2) 図 1 頁  
 (3) 摘書 1 頁  
 (4) 要旨 1 頁

参考文献

50 041055

⑩ 日本国特許庁

## 公開特許公報

⑪特開昭 51 115523

⑬公開日 昭51.(1976)10.12

⑭特願昭 50-41055

⑮出願日 昭50.(1975)4.3

審査請求 未請求 (全4頁)

府内整理番号

7211 47  
6030 41  
7351 41

⑯日本分類

22 C42  
22(3)C11  
22(3)D14⑰Int.Cl<sup>2</sup>B28B 11/52  
C04B 13/00  
C04B 15/00  
C04B 31/04

## 明細書

1. 発明の名称 ガラス繊維強化セメント板の製造方法

2. 特許請求の範囲

走行中のベルトコンベア上にガラス繊維とセメントとの混合物を層状に堆積し、ベルトの表面、またはガラス繊維セメント混合物層の表面、或いは又反対に、 $Be^{2+}$ ,  $Al^{3+}$ ,  $Zn^{2+}$ ,  $Ti^{4+}$ ,  $Zr^{4+}$ ,  $Th^{4+}$ 等のイオンを含む水溶液を散布して、ガラス繊維セメント混合物層を湿潤させ、この湿潤ガラス繊維セメント混合物層を上記ベルトコンベアでロールにより圧縮し、かくして得られた原板を養生、硬化することを特徴とするガラス繊維強化セメント板の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、ガラス繊維強化セメント板の製造方法に関するものである。

セメントの機械的強度、特に引張り強度を向上させるために、セメントに繊維補強材を混合することがある。

この繊維補強セメント成形体として、汎用されているものには、石綿セメント板があり、この石綿セメント板は、例えば、石綿を開毛機で開毛し、この開毛石綿とセメントとをドライミキサーにより混合し、この混合物を層状に形成し、これを水で湿潤後、加圧して生原板を得、この生原板を養生により硬化させる方法で製造されている。

しかしながら、ガラス繊維の耐引張強度は、石綿繊維の耐引張強度に較べて一段と大であり、石綿繊維の代りに、ガラス繊維をセメントの補強材に使用し得れば、補強繊維量の配合量を少なくし得、板厚さを薄くすることが可能となる。

従来、ガラス繊維は、ガラス繊維強化ポリエスチル樹脂体に使用されており、繊維径を細くするほど引張強さが増大することから、2~12μ程度のものが実用されている。5μ並びに12μのガラス繊維の引張り強度は約300kg/cm並びに100kg/cmであり石綿の引張り強度数kg/cmに較べて極めて大である。